

RubyWorld Conference 2023 開催報告

2023年11月9日(木)、10日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、15回目となる「RubyWorld Conference 2023」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ島根、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。



15周年を迎えた今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や最新技術の情報、教育・研究などを紹介する様々なセッションを通じて、より多くの技術領域でのRuby利用、研究に普及していくことを目指し、国内外30名が講演し、来場者数は2日間で延べ780名(詳しくは下記を参照)を数えました。

また、2023年度よりRuby biz Grand prix・RubyWorld Conference・Ruby Prizeの3イベントが開催される日程を含めた1週間を「RubyWeek」と称し、Rubyに息づく「自由さ、たのしさ、コミュニティへの貢献」という価値観を表現するキャンペーンとして様々な関連イベントが開催され盛り上がりを見せました。

オープニング・セレモニーで、まつもとゆきひろ 実行委員会委員長、丸山達也 島根県知事、上定昭仁 松江市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 ソフトウェア・情報サービス戦略室 小川宏高 企画官に、来賓ご挨拶をいただきました。



引き続き基調講演では、Rubyの開発者まつもとゆきひろ委員長が「30 Years of Ruby」と題し講演。また、2日目の基調講演では、「Rubyコミュニティで過ごした10年」と題し、株式会社ケーシーエスキャロット執行役員の江森真由美氏にご講演をいただきました。



また、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰するRuby Prize 2023表彰式や、11月8日(水)に島根県松江市にて開催されたビジネスの領域においてRubyの特徴を活かし新たなサービスを創造・発信している企業を表彰するRuby biz Grand prix 2023において受賞された受賞企業のスピーチも行われました。その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者、教育機関関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が2日間の議論と、この15年を振り返ると共に来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について 2日間延べ 780名 (11月9日 474名、11月10日 306名)

来場実数 502名 (県内283名、県外202名、海外17名) ※ 海外・・・国内在住の外国人を含む

- ・IT企業関係者 261名 (県内109名、県外143名、海外9名)
- ・その他企業関係者 57名 (県内29名、県外25名、海外3名)
- ・行政関係者 52名 (県内47名、県外4名、海外1名)
- ・研究教育機関関係者 94名 (県内92名、県外0名、海外2名)
- ・一般(所属なし) 8名 (県内3名、県外5名、海外0名)
- ・講演者 30名 (県内3名、県外25名、海外2名) ※ Ruby Prize 2023 受賞者、ノミネート者・Ruby biz Grand prix 2023 受賞企業スピーカーを含む

●講演者について

・国内28名(企業関係者23名、教育機関関係者2名、医療関係者2名、一般1名) / 海外2名(アメリカ1名、台湾1名 / 共に企業関係者)